

Ever Onward

アニュアルレポート 2017

2017年3月期

多彩なニットを創り出す

よこ あみ き 横編機のリーディングカンパニー

横編機は、デザイン性の高いニットウェアの生産で活躍しています。

シマセイキは、コンピュータ横編機メーカーとして常に新しい技術開発への挑戦を続け、ユーザー業界をリードしています。



ホールガーメント®横編機で
作製したニットワンピース



ニットの特長

ニットとは、ループ状の編地になっている服や生地のことです。
伸縮性があり、からだにやさしい衣料で、通気性が良くカラーバリエーションも豊富です。
適した素材を使用することで、シーズンにかかわらず一年中着用することができます。

シマセイキの特長 1 海外販売が 85%以上

ファッション産業の中心地イタリアや、世界最大のニット生産地である中国・香港、新たな生産拠点として拡大している南アジア・ASEAN 諸国など、全世界で高い評価をいただいています。



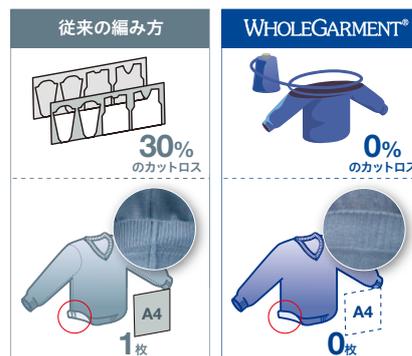
社会問題の解決に貢献するシマセイキ

環境保全への貢献

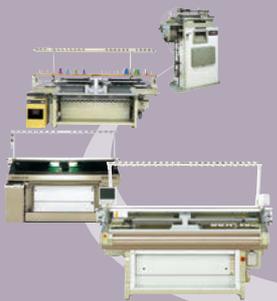
従来の横編機と比べ大幅にカットロスを削減

当社が独自開発したホールガーメント®横編機は、一着丸ごと編むことができるため、一般的な横編機に必要な裁断・縫製といった後工程をなくすことができます。

縫いしろが無くなる上に、従来方式の編機と比べてカットロスを約30%も削減できます。加えてロス分を廃棄するのに必要なエネルギーだけでなく、それに伴うエネルギーやCO₂の排出量を削減します。また必要なときに必要な分だけを生産できるため、焼却処分される売れ残り商品を最小化します。



従来の編み方では、パーツの裁断や縫製によってカットロスや縫いしろが発生します。



シマセイキの特長 3

日本国内での 一貫生産による “ジャパंकオリティ”

製造は全て日本国内の本社工場で行っています。部品から組み立てまでの一貫生産により、多種多様な製品を効率的に生み出すとともに、耐久性・安定性などの優れた品質を確保。世界中の顧客から高い信頼を獲得しています。



シマセイキの特長 5

アパレル分野 以外にも積極展開

デザインシステム関連事業を中心に、アパレル以外の分野にも「SDS®-ONE APEX3」や自動裁断機「P-CAM®」などを幅広く提案。高性能・高品質の製造機器をさまざまな業界に提供しています。

シマセイキの特長 2

技術革新を 続けて半世紀

50年以上前、手袋編機メーカーとしてスタートした当社は、機械と電子の技術を融合した総合メカトロニクス企業として、技術革新を通じて世界のニット・アパレル産業の発展に貢献し続けています。



シマセイキの特長 4

横編機の最高峰 ホールガーメント®

「一着丸ごと縫い目がないニット」を作るホールガーメント®横編機は、シマセイキの独自開発。高いデザイン性と着心地の良さを実現するとともに、カットロスや縫いしろが不要で省資源なうえ、世界的な縫製技能者の不足という問題の解決にも大きく寄与します。



労働環境の改善

過酷なリンク作業から作業者を解放

量産型の横編機は、裾、袖、身頃などのパーツごとに編立し、それらをミシンによる縫製や、ニットの目と目をつなぐリンク作業で縫い合わせます。リンク作業には、編み目の1つ1つに針を刺す手作業が必要で、その細かな作業は、長時間目を酷使するため「20代が定年」と言われるほど過酷な作業です。

一方、当社のホールガーメント®横編機は、縫い目がなく、1着丸ごと編み上げることができるため、過酷なリンク作業から解放され、労働環境の改善にも寄与します。



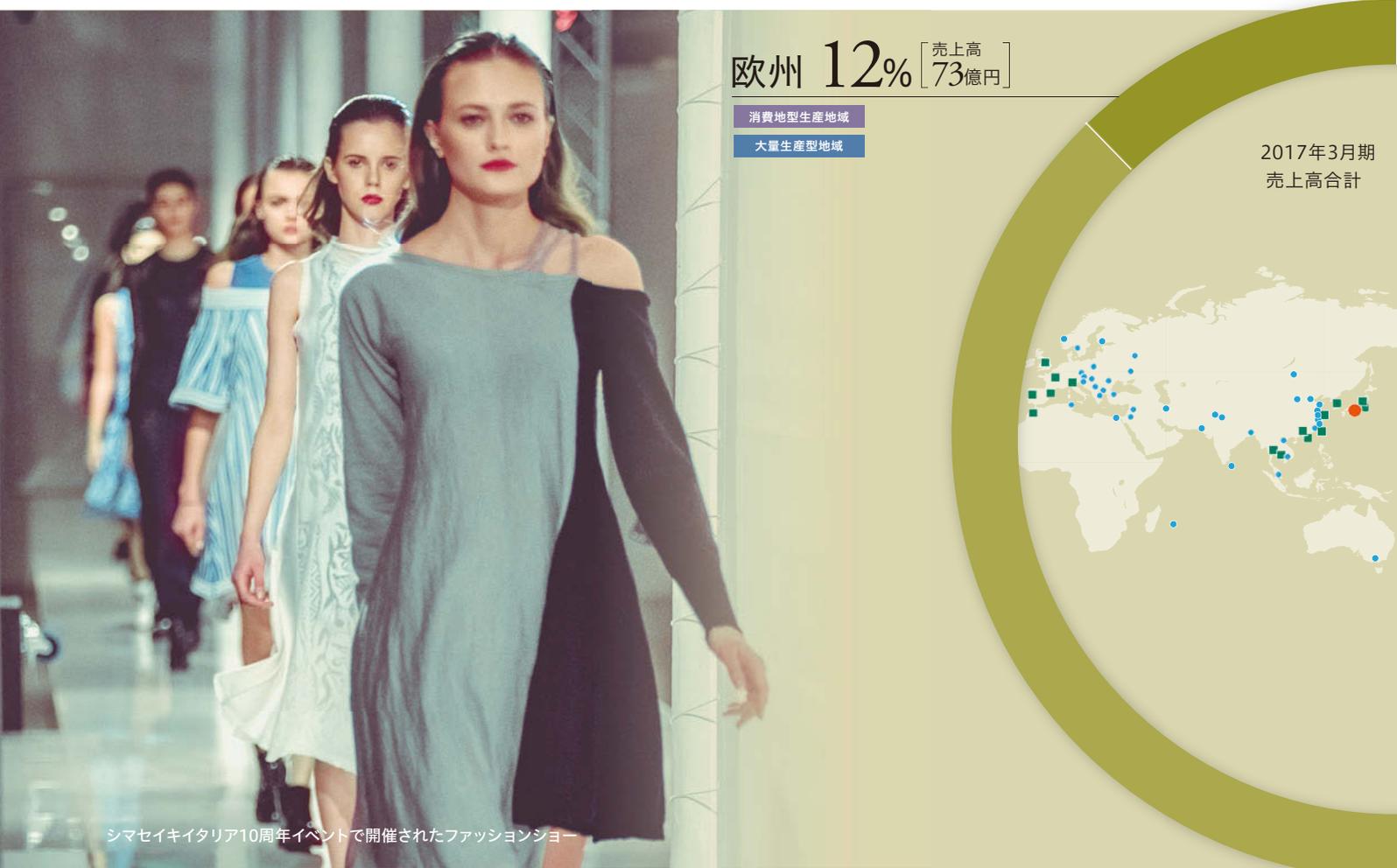
リンク作業

世界のニット産業の発展を支援

シマセイキは、売上高の85%以上を海外市場で占めるグローバル企業です。

世界の主要なニット生産地には販売・サービス拠点を、重要な消費地にはデザインセンターを配置し、世界のニットトレンドにいち早く対応。

現地のニット生産メーカーをきめ細かく支援することで、世界のニット産業の発展を支えています。



欧州 12% 売上高 73億円

- 消費地型生産地域
- 大量生産型地域

2017年3月期
売上高合計

シマセイキイタリア10周年イベントで開催されたファッションショー

欧州

アジア

市場トレンド	消費地型生産地域	大量生産型地域	大量生産型地域	消費地型生産地域
市場の特長	イタリア <ul style="list-style-type: none"> ● 世界のファッション産業の中心地 ● ニット生産が回復基調 英国・スペイン <ul style="list-style-type: none"> ● 国内生産への回帰の動き 東欧諸国 <ul style="list-style-type: none"> ● ボリュームゾーン商品の生産拠点 		中国 <ul style="list-style-type: none"> ● 世界最大のニット生産拠点 ● 上質な衣料品の国内消費ニーズ急拡大 ● シューズ生産向けの需要拡大 バングラデシュ・ASEAN諸国 <ul style="list-style-type: none"> ● 欧米アパレルの生産拠点 ● 中国からの生産シフトが活発 	
当社の戦略・施策	<ul style="list-style-type: none"> ● イタリア、英国などへはホールガーメント®横編機とデザインシステムを活用した「消費地型生産」の提案 		<ul style="list-style-type: none"> ● 中国をホールガーメント®横編機の重要ターゲットに ● 企画提案型・高付加価値のものづくりへの支援 ● ビジネスノウハウの提供 ● 現地での人材育成も強化 	

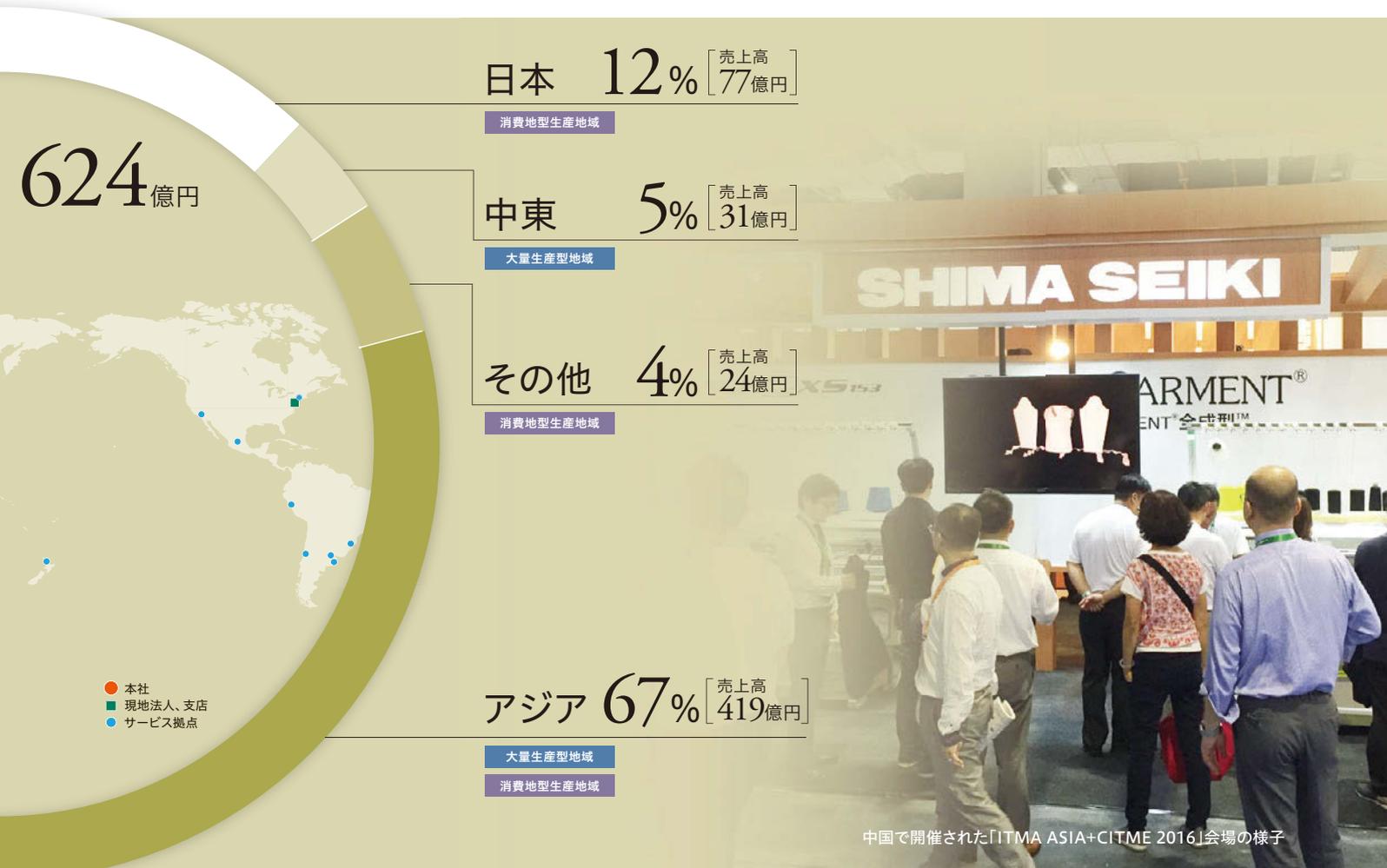
世界の2大市場トレンド（詳細はP.13-14をご覧ください。）

消費地型生産地域

オリジナリティの高い上質な衣料品が作れる横編機の市場

大量生産型地域

輸出主体の大量生産に適した横編機の市場



日本

消費地型生産地域

- ニット国内生産回帰の動き
- 自動車関連や、家具、航空機、産業資材など異業種分野でのデザインシステム活用

- きめ細かな国内ネットワークを活用
- ホールガーメント®横編機とデザインシステムを活用した「消費地型生産」の提案

中東

大量生産型地域

- トルコ
- 欧州、ロシア市場へアクセスが容易
- ニット産業が活発

- 量産型横編機の提案
- ホールガーメント®横編機の提案
- 生産性向上への支援

その他

消費地型生産地域

- 北米
- 輸入品が大半だが、本国での生産機運も高まる
- ブラジル
- 内需向けにホールガーメント®横編機が浸透

- NYデザインセンターでの情報発信
- 世界のニットトレンドの情報収集
- 国内生産支援体制を整備

財務ハイライト

株式会社島精機製作所および連結子会社
3月31日に終了した連結会計年度

	2008	2009	2010	2011	2012	2013
会計年度:	百万円					
売上高	¥69,897	¥48,970	¥36,874	¥42,781	¥37,327	¥34,970
売上総利益	35,766	24,652	14,139	19,194	14,432	12,212
営業利益(損失)	16,214	8,528	651	5,908	883	(509)
税金等調整前 当期純利益(損失)	18,168	4,057	(1,042)	1,092	(537)	3,363
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	9,959	1,766	(1,885)	770	(642)	1,754

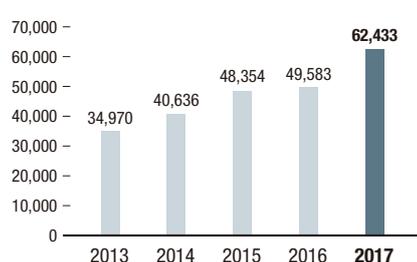
	百万円					
会計年度末:						
総資産	¥133,746	¥119,778	¥110,063	¥113,951	¥106,863	¥112,089
純資産	101,647	91,064	87,473	86,591	84,167	87,382

	円					
1株当たり情報:						
当期純利益(損失)	¥276.13	¥49.88	¥(54.52)	¥22.26	¥(18.60)	¥51.26
配当金	55.00	40.00	30.00	35.00	40.00	25.00
純資産	2,677.47	2,633.55	2,529.67	2,502.27	2,454.07	2,547.88

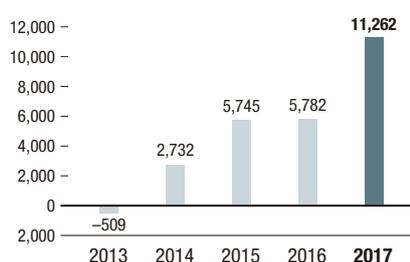
	%					
財務指標:						
ROA	7.6%	1.4%	(1.6)%	0.7%	(0.6)%	1.6%
ROE	10.6	1.9	(2.0)	0.8	(0.8)	2.0
自己資本比率	73.2	76.0	79.5	75.9	78.6	77.8
海外売上高比率	94.1	91.0	91.6	91.1	87.6	84.7

(注) 読者の便宜のため、円建金額を2016年3月31日現在の為替レートである1米ドル=112.19円、1ユーロ=119.79円でそれぞれ換算しています。

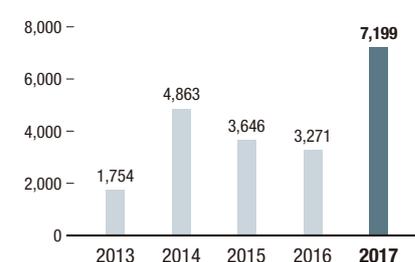
売上高 (百万円)



営業利益(損失) (百万円)

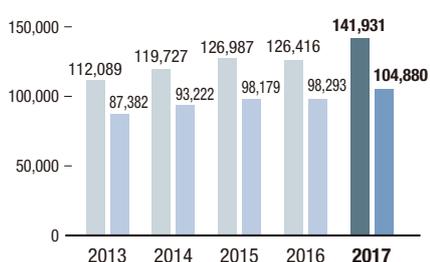


親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)



2014	2015	2016	2017	2016 ▶ 2017	2017	2017
				増減率	千米ドル	千ユーロ
¥40,636	¥48,354	¥49,583	¥62,433	25.9%	\$556,494	€521,187
17,269	21,866	23,345	29,048	24.4	258,918	242,491
2,732	5,745	5,782	11,262	94.8	100,383	94,015
7,230	7,006	4,803	9,979	107.8	88,947	83,304
4,863	3,646	3,271	7,199	120.0	64,168	60,097
				増減率	千米ドル	千ユーロ
¥119,727	¥126,987	¥126,416	¥141,931	12.3%	\$1,265,095	€1,184,832
93,222	98,179	98,293	104,880	6.7	934,843	875,532
				増減率	米ドル	ユーロ
¥142.13	¥106.54	¥95.61	¥209.97	119.6%	\$1.87	€1.75
32.50	32.50	37.50	45.00	20.0	0.40	0.38
2,718.57	2,863.49	2,867.00	3,039.66	6.0	27.09	25.37
4.2%	3.0%	2.6%	5.4%			
5.4	3.8	3.3	7.1			
77.7	77.2	77.6	73.8			
83.6	84.1	83.5	87.6			

総資産／純資産 (百万円) ■ 総資産 ■ 純資産



1株当たり配当金 (円)



ROA／ROE (%) ● ROA ● ROE



横編機事業の好調により、大幅な増収・増益を達成。 新経営体制のもと、さらなる成長を加速していきます。

2017年6月28日、第56回定時株主総会後に開催された取締役会におきまして、島正博が代表取締役会長に、島三博が代表取締役社長に就任いたしました。

代表取締役1名から代表取締役2名への移行により、さらなる経営体制の強化・充実を図り、企業価値の向上を目指してまいりますので、今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長
島 正博

代表取締役社長
島 三博

Ever Onward — 限りなき前進

当社は、「手袋編機の全自動化」という難課題を実現するため、島正博によって1962年に創立されました。

「Ever Onward – 限りなき前進」を経営理念に掲げ、常に新しい技術の開発を目指して、惜しみない努力と未知なる領域への挑戦を続けてまいりました。

創業以来、時代のニーズを先取りした横編機やデザインシステムを次々と開発し、世界のトップメーカーへと成長。1990年代には、「産業革命に匹敵する」と評された無縫製型の「ホールガーメント®横編機」の開発に成功しました。

今後も新たな技術開発へのチャレンジを続けながら、企画提案型のビジネスモデルの浸透を図り、アパレル産業をはじめユーザー業界の発展に貢献してまいります。

Q1

当期(2017年3月期)の主な取り組みと業績について説明してください。

A1

円高環境の中でも売上・営業利益を大きく伸ばすことができました。

中期経営計画「Ever Onward 2017」の発表から2年目となる当期、当社グループは国内および海外各地のさまざまなユーザーの要望に応えるべく、各市場のニーズに合わせた製品の開発・サービスの提供に努めるとともに、顧客に密着した提案型の営業活動を展開しました。中でも主力ビジネスである横編機事業は、前期(2016年3月期)の第4四半期から急速に販売を伸ばし、当期に入ってから高水準の受注ペースが続いたことで、業績全体を牽引しました。

この結果、当期の連結売上高は624億33百万円(前期比25.9%増)と、増収を達成できました。また利益面についても、円高による約20億円の為替差損はあったものの、販売増加に伴う売上総利益率の向上や、生産工場の稼働率向上によるコスト低減などにより、営業利益112億6百万円(同94.8%増)、経常利益100億43百万円(同121.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益71億99百万円(同120.0%増)と、いずれも前年比2倍前後の大幅な増益となりました。

中期経営計画「Ever Onward 2017」の2年目としての目標もほぼ達成しており、次期以降もこの好調を継続し、さらなる飛躍を目指していきます。



代表取締役社長 島 三博(しま みつひろ) プロフィール

1987年3月 当社入社
 1998年3月 システム開発部長
 2002年6月 取締役システム開発部長
 2006年6月 取締役制御システム開発部、知的財産部担当兼グラフィックシステム開発部長
 2007年6月 常務取締役制御システム開発部、知的財産部、トータルデザインセンター担当兼グラフィックシステム開発部長
 2010年6月 常務取締役生産技術部、資材部、トータルデザインセンター担当兼生産本部長
 2011年6月 専務取締役生産技術部、トータルデザインセンター担当兼生産本部長
 2012年6月 取締役副社長経営企画部、トータルデザインセンター担当兼営業本部副部長
 2013年3月 取締役副社長兼営業本部副部長
 2015年4月 取締役副社長兼営業本部副部長兼経営企画部担当
 2017年6月 代表取締役社長兼営業本部長兼経営企画部担当(現任)



Q2

事業分野別の状況について説明してください。

A2

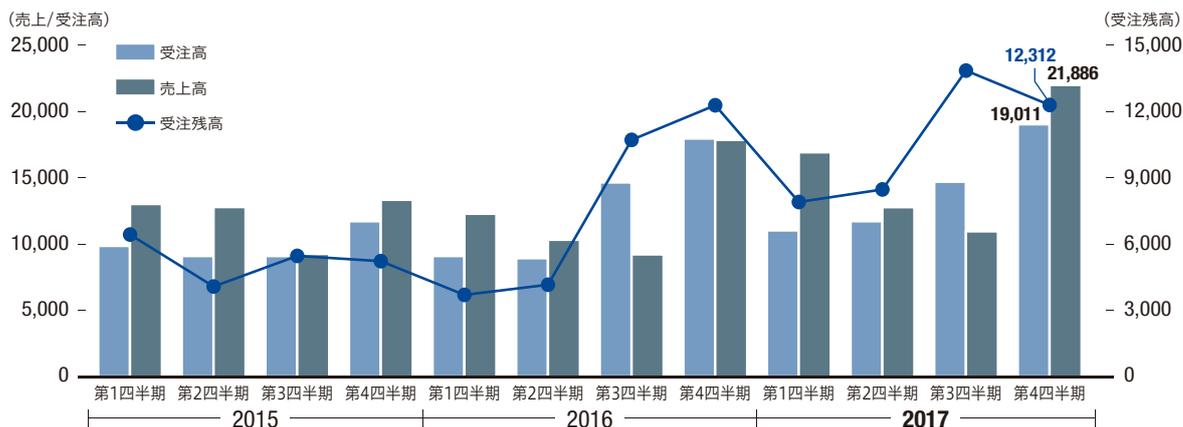
ASEAN諸国・中国市場などで設備投資が活発化し、横編機の販売が拡大しました。

横編機事業では、前期に引き続き欧米アパレルの生産拠点であるバングラデシュやベトナムなどのASEAN諸国において販売が拡大しました。また、中国市場でも、上質な衣料品を求める国内消費者ニーズの広がりを受け、欧米アパレル向けのOEM生産を主体としていたニットメーカーが国内市場に向けた企画提案型・高付加価値のものづくりへと戦略を転換しはじめたことから設備投資が活発化し、販売が増加に転じました。これに加えて中国市場では、新たにシューズ生産向けの需要も拡大してきたことで、販売増加につながりました。アジア地域ではこの他、前期においてホールガーメント®横編機の最新機種「MACH2®XS」の導入が進んだ韓国市場においても、引き続き販売を伸ばしました。

欧州市場では、世界のファッション産業の中心地であるイタリアが前期から回復基調に転じており、当期もホールガーメント®横編機「MACH2®XS」に加え、「SRY®」、「SIR®」などの上位機種を中心に堅調に推移しました。

デザインシステム関連事業では、「SDS®-ONE APEX3」がニットプログラミングだけでなくデザインツールとしての活用が広がりましたが、日本国内アパレルの不振の影響もあり全体ではやや低調となりました。

四半期別売上高/受注高/受注残高 (百万円)



(3月31日に終了した連結会計年度)



前期に業種ニーズに合わせ機種バリエーションを増やした自動裁断機「P-CAM®」は、アパレル分野だけでなく、自動車関連、家具関連、産業資材分野などへ引き続き販路を広げることができました。

Q₃

次期(2018年3月期)の主な取り組みと業績見通しについて説明してください。

A₃

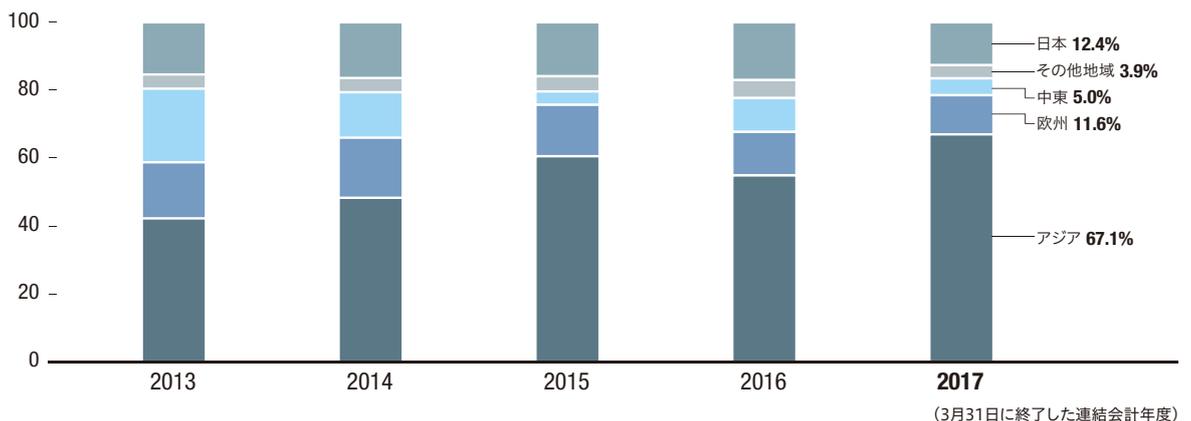
高付加価値化へと向かう中国市場の変化を
ホールガーメント®横編機の拡大につなげていきます。

現在、欧米アパレルの生産地であるバングラデシュやASEAN諸国からのコンピュータ横編機の大量受注により、当社の工場はフル稼働状態が続いています。今後も旺盛な需要が予想されるため、さらに生産体制の強化に努めていきます。

中国市場では、2016年6月、上海に「島精機ニットデザイン研究開発センター」を開設しました。今後は高付加価値のものづくりの情報発信や、当社の蓄積したビジネスノウハウの提供とともに、現地での人材育成についても強化していきます。(詳細はP.20をご覧ください。)

また、次期からは中国市場をホールガーメント®横編機の重要ターゲットと位置付け、欧米アパレル向けOEM生産から自国内市場向けの高付加価値製品へビジネスモデルの転換を図る先駆的な顧客を中心に、

地域別売上高比率 (%)



トップメッセージ



積極的な提案活動を進めていきます。

デザインシステム関連事業では、「トータルファッションシステム®」の中核となる「SDS®-ONE APEX 3」の積極的な営業活動を引き続き国内外で展開し、異業種分野への提案もより強化します。また、日本国内を中心に販売を伸ばしてきた「P-CAM®」も、海外サービス拠点の拡充などにより海外展開を本格化させていきます。さらに、ものづくりのサプライチェーンを最適化する新ソリューション「Shima KnitPLM®」や、コンテンツの提供を通してオリジナリティあるものづくりを支援するWEBサービス「staf®」などの新分野にも注力し、横編機事業、デザインシステム関連事業との連動により、さらなる成長につなげていきます。

これらの取り組みにより、次期の連結業績は売上高730億円、営業利益150億円、経常利益150億円、親会

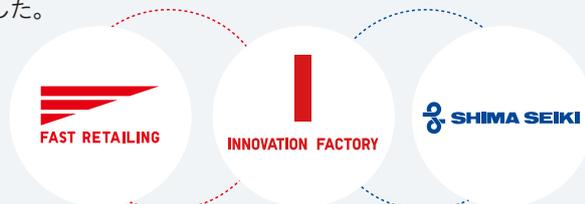
TOPICS

(株)ファーストリテイリングとの協業でホールガーメント®の世界展開を加速します

「イノベーションファクトリー」が合併会社としてスタート

2016年10月、ユニクロ等を展開する(株)ファーストリテイリングからの出資を受け、当社子会社の(株)イノベーションファクトリーが新たに合併会社としてスタートしました。

当社と(株)ファーストリテイリングの関係は、当社のユーザーが同社と取引を開始した1990年代に始まります。この度、ユニクロ事業を中心とした同社グループ向けに、高品質で付加価値の高いニット製品を生産することになりました。



イノベーションファクトリー

両社の協業でホールガーメント®を世界に発信

昨秋に販売を開始した「ユニクロU」のレディースニット製品の一部は、イノベーションファクトリーで製造しています。今後、(株)ファーストリテイリングの企画力、マーケティング力、販売力と、当社が持つ最新ニット技術を融合させることで、ホールガーメント®を核とした次世代ニット生産の事業モデルを構築し、イノベーションファクトリーが画期的なニット製品の生産を実現する「マザー工場」の役割を担っていくことを目指していきます。

ユニクロ事業を中心に、SPA(アパレル製造小売業)ビジネスを世界規模で展開するファーストリテイリンググループとの連携を一層高めることで、ホールガーメント®の認知度を向上させ、ホールガーメント®横編機事業の拡大につなげてまいります。



社株主に帰属する当期純利益100億円を計画しています。

Q₄

株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

A₄

新経営体制のもと、企業全体を新たな成長ステージへと乗せていきます。

当社では、株主の皆様に対する利益還元を、経営の最重要課題に位置付けています。当期の株主の皆様への配当金については、中間配当金を20円、期末配当金は当初の予定通り創立55周年の記念配当2円50銭を加え、1株あたり25円とし、年間配当金は1株につき45円で実施させていただきました。

中期経営計画「Ever Onward 2017」の最終年度となる次期も、引き続き各国・地域のニーズに密着した提案活動を積極的に進めていきます。

中でも、顧客に対する高付加価値なものづくり提案については、高品質なニット製品を一着一着創り出すホールガーメント®横編機と、企画プロセスを飛躍的に短縮し、市場に即応したものづくりを実現するデザインシステムを連携させることで、画一的な労働集約型産業ではなく、消費者ニーズにスピーディかつタイムリーに対応できる消費地型生産モデルへの変革を促していきます。

近年、そのような市場の変化が起きているのが韓国です。同国ではデザイン性の高いホールガーメント®製品の価値が消費市場に認められ、ホールガーメント®横編機を活用した革新的・創造的なものづくりをアパレル各社が競うことで、市場がさらに活性化していくという好循環が生まれています。(詳細はP.15をご覧ください)

このような新しい消費地型生産を一つのビジネスモデルとして、質的な変容を遂げつつある中国市場をはじめ、全世界の市場に今までにないイノベーションをもたらす提案活動を積極的に展開していきます。そしてニット業界にとどまらず、アパレル、テキスタイル、雑貨、家具など、あらゆる分野でもものづくりの変革を目指します。

新経営体制のもと、中期経営計画を軸に経営基盤の強化に取り組むとともに、企業全体を新たな成長ステージへと乗せていきます。株主・投資家の皆様には、引き続き当社グループへの温かいご理解、ご支援をお願い申し上げます。

代表取締役会長

島 正博

代表取締役社長

島 三博

独自の製品・サービスで 世界の2大市場ニーズに対応

シマセイキは、消費が拡大する衣料品の安定した生産に適した製品を提供しています。
それに加え、これから広がりが見込まれる消費地の生産ニーズに応える製品も取り揃え、
さまざまな市場ニーズを捉えた高品質な製品ラインアップで、グローバルに展開しています。

市場ニーズ

ニーズ対応

消費地型生産地域



豊富なデザインバリエーション

消費地でのクイックレスポンス生産
(再注文も可能に)

注文に応じて必要な量だけ生産できる
オンデマンド生産

代表的な市場 イタリア、アメリカ、日本、中国の一部

オンリーワン製品とデザインをセットで提案

消費地型生産地域では、オリジナリティの高い上質な衣料品
が求められており、そのニーズはさらに強まると考えられます。

- ホールガーメント®横編機とデザインシステムの
組み合わせによるハイクオリティなニット生産提案
- Eコマースでの活用により新しい生産・流通への提案
- 現地デザインセンターでの情報交換・提案
- 技術者の教育(現地・日本での受け入れ)

大量生産型地域



世界経済の成長に伴い、拡大する
衣料ニーズ

コストパフォーマンスを求める
消費者ニーズ

大量に安定して生産するニーズ

代表的な市場 バングラデシュ、ASEAN諸国、トルコ、中国

量産に適した製品をサービスとセットで提案

輸出主体の大量生産型地域では、品質が良く安定した生産が
できる機械が求められます。

- 量産に適したベストセラー機による生産提案
- 生産計画に応じた設備投資提案
- 各種メンテナンスが可能なサービスネットワークの拡充
- 技術者の教育(現地・日本での受け入れ)

オンリーワン製品が市場の変化を加速

他社にないオンリーワン機能を持ったホールガーメント®横編機とデザインシステムは、一度導入されると、作り出されるその斬新な衣料品が評価され、販売が増加することで、次の設備投資を加速します。例えば、かつて世界の工場と言われた中国でも、従来の大量生産ニーズに加えて、自国内市場向けの高付加価値製品の生産に取り組む先駆的な顧客企業が増加してきています。

今後の市場ニーズ予測



対応する製品例

最新技術を搭載したオンリーワン製品

高品質で、美しいシルエットの無縫製ニット製品を創り出すホールガーメント®横編機と、高精細なデザインシステムの組み合わせにより、オリジナリティの高い衣料品を短時間で生産することができます。また、WBEサービス「staf®」のコンテンツの提供を通じてオリジナリティあるものづくりを支援していきます。



MACH2®XS



SDS®-ONE APEX3



耐久性と生産性に優れたベストセラー機

良質なニット製品を、大量に生産できる製品群を提供しています。安定した稼働により、生産コストを抑えられ、コストパフォーマンスの高い衣料品を生産することができます。

さらに、「Shima KnitPLM®」のIoT技術を活用し、生産計画と管理・モニタリングで生産の最適化を図り、生産効率を高めます。



SSR®



SVR®



ホールガーメント®×インレイ編みで 高級品市場を開拓する — HANBO TEXTILE様

HANBO TEXTILE CO.

SHIMA SEIKI

韓国において、他社製品との差別化を図る動きが高まっており、ホールガーメント®横編機の販売が拡大しています。今回、ホールガーメント®横編機の活用で急成長されている「HANBO TEXTILE」様にお話を伺いました。

「ホールガーメント®は芸術。
デザインの良さで再注文が次々と——」



HANBO TEXTILE CO. 代表取締役社長 Youn-Sung Park 様

韓国ニットのトップブランドから多くの受注を獲得

2005年に初めてホールガーメント®横編機を見て、その大きな可能性を感じ、ぜひ導入したいと考えていました。2010年によく購入することができ、2013年頃からはホールガーメント®横編機に特化した事業を展開しています。

2015年に「MACH2®XS」が発表された時には、いち早く導入。「ホールガーメント®は芸術」をスローガンに、そのポテンシャルを最大限引き出すことに努めた結果、受注が広がってきました。ホールガーメント®の認知度向上もあり、現在では多くのアパレルブランドの生産委託を受け、韓国ニットのトップブランドにも数多く納入しています。

ホールガーメント®とインレイ編みの融合で高評価

韓国ニットメーカーのほとんどは、アパレルからの指示通りに編むOEMです。当社はOEMの立場ながら、アパレルから提供されるデザイン画に基づいて、いかに付加価値を付けて編成するかを当社で考え、サンプルを作成し、当社側から提案するようにしており、その結果、受注を伸ばすことができます。

また、韓国で初めてホールガーメント®に「インレイ編み」を採用入れ、その独創的な編成を「Inlayment (インレイメント)」として商標登録し、高級ブランドからも高評価を得ています。



HANBO TEXTILE CO.

韓国のニットOEMメーカーとして1985年に設立。1997年に初めてシマセイキの横編機を導入し、近年ではホールガーメント®のメリットを生かした新しいビジネスモデルで業績を拡大している。

さまざまな工場が入った韓国では主流の“工場マンション”で生産



編機の保守にも力を入れ、フル生産を可能に

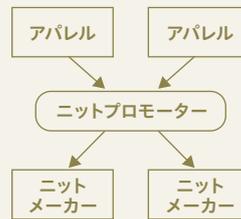
デザイナーのイメージを実現するニットプログラミング



韓国の衣料品市場の特徴

韓国で生産されているニット製品は、ほとんどが自国内で販売されています。一般の衣料品は他国と同様、景気変動に左右されますが、韓国の場合、高級品は富裕層の需要が固く、景気変動にあまり影響されないのが特徴です。

また、ニット生産において「ニットプロモーター」という業種があり、アパレルからの仕事をニットメーカーに割り振る役割を担っています。



ホールガーメント®の強みを生かして業績拡大

生産面を見たホールガーメント®の利点は、リピートオーダー（追加注文）にすぐに対応できることです。少ロット生産から始め、売れることで追加注文が続き、結果として大きな生産量にする、という取り組みをホールガーメント®で行っています。

アパレルにとって在庫リスクが少なく、かつ短納期にも対応できるメリットがあることから指名が増加しており、ホールガーメント®のブランド価値も上がってきています。

大手アパレルとの直取引から欧米への輸出も視野に

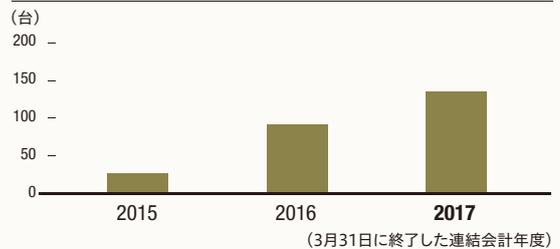
韓国では「ニットプロモーター」を介した取引が主流ですが、当社は国内の有力アパレルとの直取引が広がっています。これを生かし、将来は欧米への輸出も増やしていく考えです。グローバル市場への挑戦に向け、デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」の高精細なバーチャルサンプルの活用などにも取り組み、シマセイキと共に進化していきたいと考えています。

ホールガーメント®を生み出してくれたシマセイキにはとても感謝しています。それに応えるため、これからも韓国からホールガーメント®を広めるべく挑戦を続けていきます。

韓国市場でのシマセイキの取り組み

韓国市場における当社の活動としては、同国特有の市場性を考慮し、ニットメーカーだけでなく、アパレルメーカー、ニットプロモーター、後工程加工会社などへの提案を強化しています。その結果、ホールガーメント®の活用によって、これまでにない付加価値のある商品を作ることができるというストーリー性が受け入れられ、販売が拡大しています。韓国でのホールガーメント®横編機の販売台数は、「MACH2®XS」が発売された2015年頃から増えてきており、当期では前期比約50%増と大幅に販売台数を伸ばしました。

韓国におけるホールガーメント®横編機販売台数



洗濯やアイロンなど
仕上げ加工も重要なノウハウ



社員教育に力を入れ、
福利厚生も手厚い

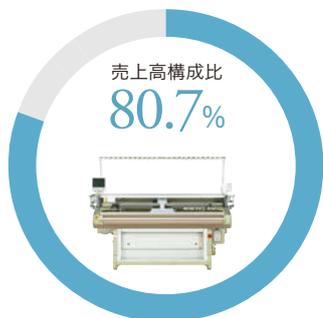
「Inlayment」を
商標登録して積極展開

Inlayment®

ホール
ガーメント® × インレイ
編み



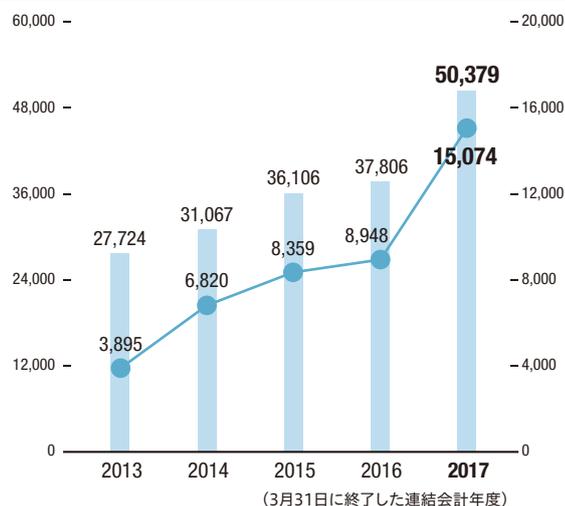
当期の概況と次期の見通し



横編機事業

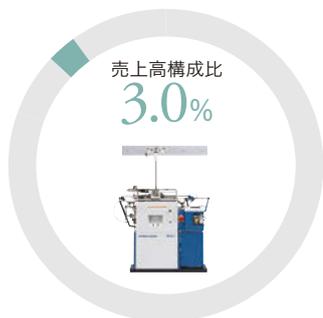
世界トップの技術力を誇るコンピュータ横編機を製造・販売する当社の主力ビジネス。一着丸ごと立体的に編み上げるホールガーメント®横編機、伸縮性を抑えた新しい編地ができる「SRV®」、コストパフォーマンスに優れた「SSR®」、さらに高速編成を可能とする「SVR®」など、独自の開発力を生かした豊富なラインアップで進化し続けています。

売上高／営業利益 (百万円) ■ 売上高 ● 営業利益



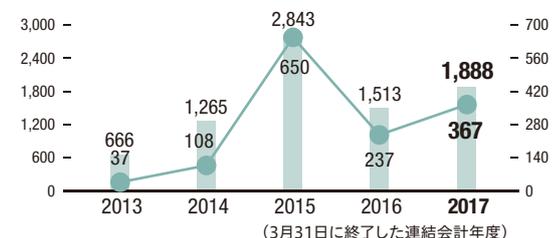
デザインシステム関連事業

アパレル業界をはじめ、さまざまな業界のものづくりを支援するデザインシステムを提供。高精細なバーチャルサンプルや三次元シミュレーションなどを駆使することで、多彩なデザインを可能にすると同時にリードタイムの短縮とコスト削減を実現。また、自動裁断機による異業種への展開も積極的に進めています。



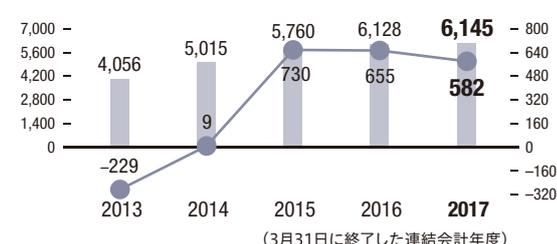
手袋靴下編機事業

当社技術開発の原点である手袋編機、靴下編機の製造・販売。ファインゲージ化も進め、医療用など高付加価値分野への対応を強化しています。



その他事業

当社編機・システム機器のメンテナンス部品の販売や修理・保守、高級カシミア糸の紡績、ニット製品の販売などの事業を行っています。



当期の概況

アジア市場ではバングラデシュやASEAN諸国で設備投資が年度を通し活発に推移し、「SSR®」や「SVR®」を中心に販売が拡大しました。中国市場でも企画提案型への転換を図る動きの広がりや、シューズ生産向けの需要拡大などにより売上が増加しました。韓国市場においてもホールゲーム®横編機「MACH2®XS」の導入が加速しました。

先進国市場では、欧州の中心市場イタリアで「MACH2®XS」や「SRV®」、「SIR®」などの販売が伸びました。

一方、中東のトルコは、上半期は「SVR®」を中心に好調でしたが、下半期からは政情不安を背景に欧州からの発注が急減したことで当期では低調となりました。

また、ここ数年設備投資が活発だった日本市場では「MACH2®XS」の採用が進んだものの、売上高は前期に比べて減少しました。

これらの結果、横編機事業の売上高は503億78百万円(前期比33.3%増)となりました。

次期の見通し

バングラデシュやASEAN諸国では、次期もコンピュータ横編機を活用した大量生産型のものづくりが引き続き拡大すると見込まれます。「SSR®」や「SVR®」を中心にこうした旺盛な需要に対応するとともに、新工場の稼働により生産体制も強化していきます。また、当期に設備投資が回復した中国市場については、自国内市場向けの高付加価値製品へビジネスモデルの転換を図る企業を中心に、ホールゲーム®横編機を含む高機能機種をより強化します。新たに中国で拡大しつつあるスポーツシューズ向けの需要に対しても、積極的な提案活動を展開していきます。

欧米・国内などの先進国市場に関しては、ホールゲーム®横編機「MACH2®XS」を戦略機種と位置付け、デザインシステムとの連携による「消費地型生産」の提案を強化していきます。

これらの施策により、次期の売上高は、592億60百万円(前期比17.6%増)を見込んでいます。

ニット業界以外の幅広い業種に採用を広げてきた「SDS®-ONE APEX3」は、日本国内アパレルの不振などからやや低調となりました。機種バリエーションを拡充した自動裁断機「P-CAM®」は自動車内装部品や家具関連、産業資材分野などへ販路を広げ、売上も若干ながら増加しました。

これらの結果、デザインシステム関連事業全体の売上高は40億21百万円(前期比2.8%減)となりました。

「SDS®-ONE APEX3」は「トータルファッションシステム®」の中核として、ニット・アパレル業界にととどまらず幅広い分野への積極的な提案活動を引き続き国内外で展開していきます。また、これまでは日本国内を中心に販売を伸ばしてきた「P-CAM®」についても、海外サービス拠点の拡充などにより海外展開を本格化していきます。

これらの施策により、次期の売上高は、51億40百万円(前期比27.8%増)を見込んでいます。

前期に落ち込んだ大手ユーザーの設備投資が回復し、精密作業用など高付加価値機種を中心に販売が伸びました。

これらの結果、手袋靴下編機事業の売上高は18億87百万円(前期比24.8%増)と増加しました。

高付加価値製品を中心に国内外の顧客に密着した提案活動を引き続き展開し、需要を喚起していくことでさらなる販売拡大を図ります。

次期の売上高は21億円(前期比11.3%増)を見込んでいます。

横編機の販売台数の増加に連動してメンテナンス部品の販売、アフターサービスの売上が伸びた一方、カシミア糸の販売はやや減少しました。

これらの結果、その他事業の売上高は、ほぼ前年並みの61億44百万円(前期比0.3%増)となりました。

当期同様の活動を展開していきます。

次期の売上高については65億円(前期比5.8%増)を見込んでいます。

Topics 2017

(2016年4月1日～2017年3月31日)

展示会

「ITMA ASIA+CITME 2016」に出展。 ビジネスチャンスの広がりには確かな手応え



過去最大の規模で大盛況

当社は2016年10月、中国・上海で開催された繊維機械見本市「ITMA ASIA+CITME 2016」に出展しました。

今回のITMA ASIA展では1,600社を超える展示ブースが設けられ、アジアを中心に世界中から来場者が訪れました。

経済成長に伴い衣料品需要が変化している中国市場を視野に、当社はホールガーメント®横編機の最新機種

「MACH2®XS」をはじめ、インレイ柄が編成できる「SRY®」やデザインシステム「SDS®-ONE APEX3」といった高付加価値の製品を前面に打ち出しました。

ユーザーの新たなニーズに応える

中国におけるニット製造業では、市場構造の変化を背景に省人化、高付加価値化、環境対応といったニーズが拡大。従来のOEM生産から脱皮し、企画から販売まで一貫で手掛けるSPA(アパレル製造小売業)型ビジネスへ挑戦する顧客も増えています。

これに対応し当社ブースでは、ニット生産の各プロセスを見える化してものづくりのサプライチェーンを最適化できる「Shima KnitPLM®」のデモンストレーションを実施。WEBサービス「staf®」も紹介し、「SDS®-ONE APEX3」を核としたトータルソリューションの提案で多くの来場者の注目を集めました。

また、ホールガーメント®横編機にも、製品の高付加価値化を目指す顧客から多数の引き合いがあり、ビジネスチャンスの広がりには確かな手応えを得た5日間となりました。



展示会

日米の小売業向け展示会で、 インテルのブースに当社製品を出展



2017年1月、米国ニューヨークで開催された小売業向け展示会「NRF」展(National Retail Federation Retail's Big Show 2017)において、インテル社のブース内で、当社製品が展示されました。インテル社はコンピュータ用プロセッサで世界トップシェアを誇る半導体メーカーで、店舗における業務革新の事例として当社製品が紹介されました。

展示会では、当社のホールガーメント®横編機とデザインシステムの連携による、アパレル製品の革新的なオンデマンド生産を見ていただき、好評を博しました。

これを受けて、2017年3月には、東京で開催された小売業向け展示会「リテールテックJAPAN 2017」においてもインテル社のブースで当社製品が展示されました。来場したデザイナーブランドの中には、店舗でのオーダーメイド販売の事業化に興味を示して具体的なビジネスモデルを検討するなどの成果があり、小売業界をはじめとする異業種分野へ当社製品をアピールできました。



NRF展(ニューヨーク)



リテールテックJAPAN 2017(東京)

**社会からの
評価**
**シマセイキの“全自動横編機”が
「戦後日本のイノベーション100選」に選定**


当社の“全自動横編機”が、公益社団法人発明協会による「戦後日本のイノベーション100選」に選定されました。この100選は、戦後日本の産業発展に寄与した各分野のイノベーションを選んだもので、内視鏡、インスタントラーメン、新幹線、ウォークマン、ウォシュレットなど、わが国を代表するそうそうたる発明品が選ばれています。全自動手袋編機の技術展開から1978年に誕生したコンピュータ制御横編機「SNC」は当社の成長の礎であり、最新機種「MACH2®XS」に至るまで、たゆまぬ進化を続けてきました。これからもシマセイキは革新的技術で世界をリードしていきます。



「SNC」(左)と「MACH2®XS」(右)

人材育成
**上海に「島精機ニットデザイン研究開発センター」を開設。
中国などの内需活性化に向け人材育成を推進**


2016年6月、上海郊外にある上海視覚芸術学院に、人材育成や製品開発の拠点となる「島精機ニットデザイン研究開発センター」を開設しました。

同校は、上海の名門校である復旦大学から2013年に独立した総合的な芸術学校で、産学協同のプロジェクトへの協力として当社がホールガーメント®横編機を中心に10台の編機を設置。新素材や製品を開発できる人材の育成に加え、お客様の研修の場としても活用していきます。

開所式には、中国、台湾、香港の取引先も多数参加。これらの地域における内需拡大に伴い、必要となる人材を育成することで、新しいものづくりを活性化していけるよう運営に携わっていきます。


CSR
**社員の子育て支援の一環として、
企業内保育園「しまキッズランド」がオープン**


2017年4月、企業内保育園「しまキッズランド」が、本社敷地内にオープンしました。

建物周囲には四季を感じさせる植栽が施されており、屋根には太陽光パネルを設置。また、保育室内には床暖房や、ケガ防止に配慮した安全建具なども設置されており、安全面にも配慮しています。

子育て中の社員が安心して業務に専念できる環境を整え、能力開発やキャリアアップを支援することで優秀な人材の確保に努め、今後とも長期的な事業拡大に取り組んでいきます。



事業の発展と継続のために

研究開発活動

当社では、創業以来、「Ever Onward — 限りなき前進」の経営理念のもと、「創造性にもとづく独自の技術開発」を基本に、ハードウェア、ソフトウェアを自社開発し、常に顧客の立場に立った製品およびノウハウを生み出すための研究開発に努めています。

当期の研究開発活動として横編機分野では、地域のニーズに適応する機種バリエーションの充実を進めていく一方で、部品の共通化や組立作業の自動化を進める改良など、品質の向上や生産効率化を図る取り組みも行っています。

ホールガーメント®横編機においては、最新機種「MACH2®XS」に15ゲージのスマールフックタイプを追加しました。この開発によりゲージ範囲の拡大のみならず、ファインゲージの編成において品質の安定化をさらに図ることができます。

また、ファッション業界において商品の市場投入の短サイクル化が進み、マーケティングから製品企画、生産から販売までのプロセスをいかに無駄なく、迅速に行うことが重要になっており、全工程を可視化できる生産管理システム「Shima KnitPLM®」の開発に引き続き取り組んでいます。

さらに昨今、スポーツウェアが普段着として浸透している背景を受け、スポーツ関係に向けてサンプル提案や素材開発に注力しました。

また、ファッション業界に向けて、新たなWEBサービス「staf®」を発表しました。この「staf®」には過去50年分のファッションアーカイブやトレンド情報に加え、膨大な量のファッション関連コンテンツが用意されており、オリジナリティあるものづくりを支援するこれまでにないサービスとして開発しました。

アパレル業界以外での採用が進む自動裁断機の「P-CAM®」シリーズは、機種バリエーションの拡充とともに、“Total Cutting Solution”を確立させるため、裁断機の開発にとどまらず、延反からラベリング、そしてピックアップと裁断の前後工程において生産性向上や省人化につながる開発を強化しました。

当期に発表した自動ラベリング装置「P-LAB®」シリーズは、サイズや品番など、ピックアップに必要な情報をラベルに印字し、裁断する生地の上に自動で貼付する装置で、データをもとに最適な位置にラベルを貼付することで、裁断パーツの仕分け時のミスを軽減します。

また、新たに開発した自動延反機「P-SPR®2」は、反物を

必要な長さに延反してカットし、指定された枚数を精度よく自動で重ねることができます。今後も性能の向上に加え、お客様の要望に合わせた製品開発を継続することで、航空宇宙関連をはじめ自動車産業、産業資材などさまざまな業界への浸透を図っていきます。

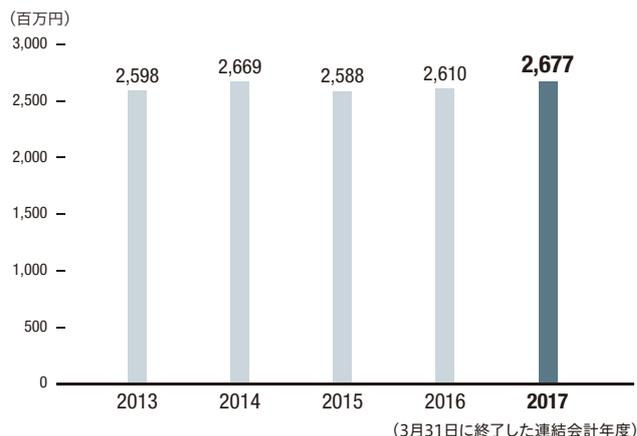


SVR®1235P

P-LAB®

P-SPR®2

研究開発費



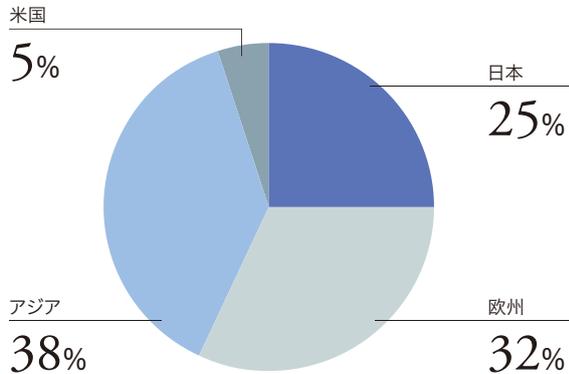
知的財産活動

当社の成長力の源泉である研究開発の成果を知的財産権として保護し、活用していくために、開発本部の中に知的財産部を設けています。

現在当社は、1,500件を超える国内外特許を保有しています。当社の知的財産戦略の特徴は、「横編機の技術特許」だけではなく、「ニットの編成技術」、「デザイン技術」など幅広い技術の特許を取得していることです。当社製品やノウハウを利用するユーザーの製品を知的財産権で保護し、差別化することも重要な知的財産戦略と考えています。

また、最新の開発成果はもちろん、これまでに蓄積した技術やノウハウはすべてデータベース化されており、社内でも共有できる体制を整えています。今後も知的財産活用をさらに強化し、周辺技術などに関しても特許出願していく方針です。

地域別特許比率(2016年度)



生産管理活動

当社では市場ニーズに応じた新製品をフレキシブルに開発し、製品の品質管理を徹底するため、部品の約75%を内作加工しています。製造工程には最新の工作機械設備を導入していますが、機械では対応できない精密な作業は、感覚を研ぎ澄ませた熟練工が手作業で行っており、競合他社との差別化を鮮明にする大きな要因となっています。

工場では、生産性向上のために独自のMQC(マーケットイン、クオリティ、コスト)活動を推進しているほか、太陽光発電システムを設置し、環境に配慮したものづくりを行っています。

2016年には、組立加工工程に垂直多関節ロボットを導入し、自動化による作業効率化と品質安定性を両立させる取り組みを進めています。



熟練工の技



垂直多関節ロボットによる生産ライン

事業継続計画(BCP)活動

当社では、大規模災害や事故等の発生時においても社員やその家族および関係者の安全を確保しながら、事業活動の中断を最小化し、お客様への製品の供給責任を果たせる体制整備に取り組んでいます。

自らが被災した場合を想定して、事業を早期に復旧するための準備を平時から行い、災害が起きたときには、事業継続

計画に基づき「危機管理本部」を立ち上げ、迅速に対応することとしています。



防災訓練の様子

環境活動

当社では、生産部門での省エネ推進や大規模な太陽光発電システムの導入など、環境に配慮した事業活動を推進しています。

2015年に取得したISO14001認証では、本社における管理指標として、各種環境負荷の低減や工場緑化、再生可能エネルギーの使用促進などに加え、ホールガーマント®横編機やデザインシステムをはじめとする「環境配慮型製品」の開発・提供も含めています。

また、「よい製品はよい環境から生まれる」を理念として、長年にわたり工場の緑化に取り組んでおり、工場敷地面積の約30%を緑地として確保するとともに、周囲にも植栽を提供しています。それらの環境整備活動が評価され、2016年には当社の本社工場が「平成28年 緑化推進運動功労者 内閣総理大臣賞」を受賞しました。



コーポレート・ガバナンス (2017年3月31日現在)

基本方針と体制

当社グループは、経営の効率化と健全化、透明性の向上を図り、ステークホルダーを重視した経営を行うため、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題と位置付けています。

当社は監査役設置会社であり、取締役会制度と監査役会制度の機能を十分に発揮させるとともに、監査役、内部監査室、会計監査人がそれぞれの独立性を維持しながらも連携して監査を実施することで、適正で効果的なコーポレート・ガバナンスを実行する体制を構築しています。

ガバナンス体制

(取締役・取締役会)

取締役会は取締役12名で構成され、月1回以上の開催により業務執行の監督にあたっています。

内2名は社外取締役で、外部からの視点を通じて監督機能、経営体制の強化を図っています。当期は14回の取締役会を開催しました。

(監査役・監査役会)

監査役は、社外監査役2名を含む4名から構成され、取締役の職務執行と経営状況の監査を行っています。

社外監査役は弁護士、公認会計士・税理士としての専門的見地から取締役業務の監査を行っています。当期は12回の監査役会を行いました。

(内部監査室)

内部監査室を設置し、業務全般の内部監査のほか、コンプライアンス状況やリスク管理状況、財務報告を含めた内部統制監査を年間監査計画に基づき実施しています。

(会計監査)

会計監査人として大手前監査法人を選任し、定期的に会計監査と内部統制監査を受けることで、監査の実効性を高めています。

内部統制システム

当社は内部統制システムの構築・運用を、企業理念・目標を実現させるための重要な要件であると考えており、「内部統制システムの整備に関する基本方針」を策定し、取り組んでいます。また、内部統制システム推進本部に加え、コンプライアンス委員会、リスク管理委員会、情報セキュリティ委員会を設けて内部統制の強化に努めています。

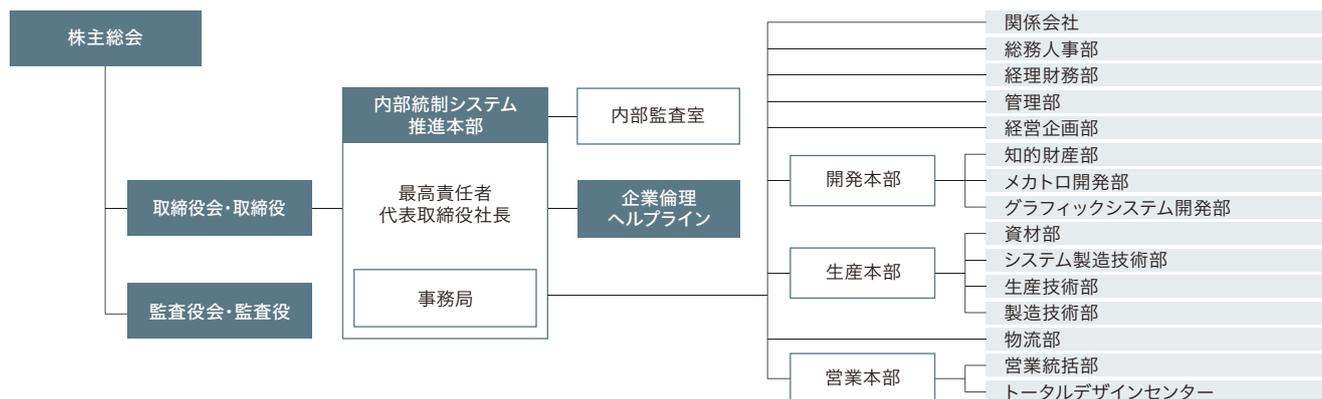
「財務報告に係る内部統制」についても、財務報告の信頼性を確保するため、公正かつ公平なディスクロージャーを推進する体制を整えています。

コンプライアンスへの取り組み

当社は「シマセイキグループ行動基準」の総則に「法令・企業倫理の遵守」を掲げて関係法令の遵守や社会規範の尊重に努めています。その実現のため、コンプライアンス委員会を設置し、定期的にコンプライアンスの状況をチェックするとともに、研修などを通じて計画的にコンプライアンスの定着を図っています。

また、法令違反や人権侵害などの報告・通報窓口として、社内外に「企業倫理ヘルプライン」を設けて運用を行っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



取締役会の実効性確保

当社では、取締役会の機能が効果的・効率的に発揮できるよう、取締役は15名以内の適切な人数で構成し、取締役会全体としての知識、経験、能力、専門性等のバランス、多様性が確保されるように配慮するものとしています。

また社外取締役には、独立性に関し当社の定める基準を満たすとともに、多様な視点を取り入れる観点から、広範な知識と豊富な経験および企業経営、法務、財務・会計等の出身分野における実績を有する者から選任することとしています。

取締役および監査役に対して、取締役会の実効性に関して段階評価およびコメントを記載する方式の質問票を配布し、その結果をもとに、取締役会において分析・評価を実施しました。

評価の結果、一般的に概ね適正に機能しており、審議、議論を通じた適切な監督が行われていることから、全体として取締役会の実効性は確保されていると評価しました。

政策保有株式

当社は、事業上の重要性や取引関係の維持、強化、連携等を通じ当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資すると判断する場合に、政策的に株式を保有します。

また、主要な政策保有株式については、取締役会で保有の必要性を検証します。政策保有株式に係る議決権の行使については、その議案の内容を精査し、株主価値の向上に資するものか否かを判断した上で適切に行使します。

関連当事者間の取引

当社が、当社役員や当社役員が実質的に支配する法人、または主要株主等と取引を行う場合には、あらかじめ取締役会に付議し、その承認を得るものとします。

取締役報酬決定の方針・手続き

取締役の報酬は、固定報酬と当該事業年度の業績に連動した役員賞与によって構成し、また、インセンティブ報酬として機能するよう、ストックオプションによる報酬も組み入れています。

なお、社外取締役の報酬は、その役割と独立性の観点から固定報酬のみとしています。

取締役の報酬は、株主総会で承認された範囲内で、取締役会の決議により決定しています。取締役会で報酬等を決議する際は、その客観性を高めるため、社外取締役からの意見を求めるものとしています。

取締役・監査役トレーニング

取締役会は、取締役・監査役が期待される役割・責務を適切に果たすため、必要な知識の習得や適切な更新等の研鑽に努めることを奨励し、このためのトレーニング機会の提供や斡旋、必要な費用の支援を行います。

また、社外取締役および社外監査役については、当社事業をより深く理解するための事業内容の説明等の機会を設けています。

社外取締役・社外監査役の主な活動と選任理由

区分 氏名	取締役会 (14回開催)	監査役会 (12回開催)	選任理由
社外取締役 一柳 良雄 氏	13回出席	—	経済、産業政策等の分野における豊富な経験とともに企業経営者としての経営全般にわたる幅広い見識、経験を有していることより、社外取締役として選任しています。
社外取締役 残間 里江子 氏	11回出席 (就任後全て)	—	プロデューサーとしてイベントの企画やPR・広報戦略における豊富な経験とともに企業経営者として経営全般にわたる幅広い見識、経験を有していることより、社外取締役として選任しています。
社外監査役 新川 大祐 氏	13回出席	12回出席	公認会計士・税理士としての豊富な経験を有しており、主に経理・税務的な観点から監査を通じ当社経営の健全性の確保に貢献いただけるものと判断し、社外監査役として選任しています。
社外監査役 野村 祥子 氏	14回出席	12回出席	弁護士としての豊富な経験を有しており、主に法務的な観点から監査を通じ当社経営の健全性の確保に貢献いただけるものと判断し、社外監査役として選任しています。

株主・投資家との対話

株主総会

当社の最高意思決定機関として、重要事項を決定するとともに、連結計算書類の内容等を報告しています。議決権の行使については、パソコンやスマートフォン等を使用することでインターネットからの行使も可能です。

また、総会後には工場見学会を開催し、株主の皆様にも事業内容をさらに深く理解していただくよう努めています。



株主総会後の本社工場見学会

個人投資家向け説明会

多くの個人投資家に当社の事業内容や事業方針などを知っていただくため、個人投資家向け説明会を開催しています。

当年度も8月に大阪で説明会を開催し、多数の個人投資家にご参加いただきました。今後もさらに事業内容の理解促進を図り、知名度の向上と企業認知の拡大に努めていきます。



個人投資家向け説明会(大阪)

決算説明会

証券アナリスト、機関投資家向けに決算説明会を本決算、中間決算の年2回、東京にて開催しています。

決算説明会には代表取締役社長が出席し、業績の結果や見通し、将来のビジョンなどを説明することで、機関投資家とのコミュニケーションを図っています。

また、2017年6月には欧州の機関投資家を訪問し、当社の経営全般について説明を行いました。



決算説明会(東京)

IRメディアの活用

株主や投資家の皆様に、当社の事業内容や業績をより理解していただくため、アニュアルレポートや株主通信「株主のみなさまへ」の発行、株主アンケートの実施、当社ホームページ・IR情報での迅速な情報開示など、さまざまなIRメディアの充実に取り組んでいます。

2017年5月にはIRサイトをリニューアルし、より充実した情報開示を進めています。



株主通信「株主のみなさまへ」

取締役および監査役 (2017年6月28日現在)

取締役

代表取締役会長
島 正博



代表取締役社長
島 三博



営業本部長兼
経営企画部担当

常務取締役
和田 隆



生産本部長兼
生産技術部、製造技術部、
システム製造技術部担当

常務取締役
有北 礼治



開発本部長

常務取締役
梅田 郁人



営業本部副本部長兼
島精機(香港)有限公司CEO

取締役
藤田 紀



総務人事部長

取締役
中嶋 利夫



トータルデザインセンター部長

取締役
南木 隆



経理財務部長兼管理部、
物流部担当

取締役
西谷 泰和



資材部長

取締役
西川 清方



営業統括部長

一柳社外取締役からのメッセージ

この1年間で最大の取り組みは、後継者育成の実行です。これは事業継続におけるリスクマネジメントでもあり、今後も持続的に成長していくための体制を整えることが出来たと考えます。今後、シマセイキが世界を舞台にさらなる成長を目指すには、ダイバーシティの推進など、より広い視点で経営を捉えることが重要です。私は行政機関に長年勤務し、経営コンサルタントとしても多くの企業の相談に乗ってきた経験・知見を生かし、シマセイキがよりグローバルに活躍できる企業になるための課題把握と提案を続けてまいります。

社外取締役

一柳 良雄



株式会社一柳アソシエイツ
代表取締役&CEO

社外取締役

残間 里江子



株式会社キャンディッドプロデュース
代表取締役社長

監査役

常勤監査役
植田 光紀



常勤監査役
田中 雅夫



社外監査役
新川 大祐



北斗税理士法人 代表社員

社外監査役
野村 祥子



堂島法律事務所 パートナー弁護士

A hand holding a pen pointing to a financial chart on a document. The background is a blurred office setting with a window showing a building outside.

財務情報について

財務に関する次の情報は、有価証券報告書をご覧ください。

- 連結貸借対照表
- 連結損益計算書
- 連結包括利益計算書
- 連結株主資本等変動計算書
- 連結キャッシュ・フロー計算書
- 連結財務諸表注記

第56期 有価証券報告書

<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/library/list.php?cate=2>

<財務数値について>

この日本語版Annual Reportは、海外の読者向けに作成された英語版Annual Reportを翻訳したものです。そのため、有価証券報告書の財務数値と異なる箇所があります。

企業情報 (2017年3月31日現在)

会社概要

商号 株式会社島精機製作所
本社 〒641-8511 和歌山市坂田85番地
 Tel: (073)471-0511(代) Fax: (073)474-8267
創立 1962年2月4日
資本金 148億5,980万円
従業員数 1,274名(連結1,859名)
URL 企業トップページ <http://www.shimaseiki.co.jp>
 IR・投資家情報 <http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>



連結子会社 株式会社シマファインプレス SHIMA SEIKI EUROPE LTD.
 ティーエスエム工業株式会社 SHIMA SEIKI U.S.A. INC.
 株式会社海南精密 島精機(香港)有限公司(SHIMA SEIKI (HONG KONG) LTD.)
 東洋紡糸工業株式会社 SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.
 株式会社SHIMA 島精榮(上海)貿易有限公司(SHIMA SEIKI WIN WIN SHANGHAI LTD.)
 SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.
 東莞島精貿易有限公司(SHIMA SEIKI WIN WIN DONGGUAN LTD.)
 SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD.
 SHIMA SEIKI KOREA INC.

投資家情報

決算期 3月31日
定時株主総会 6月
発行可能株式総数 142,000,000株
発行済株式総数 36,600,000株
株主数 12,846名
上場取引所 東京証券取引所市場第一部
監査法人 大手前監査法人

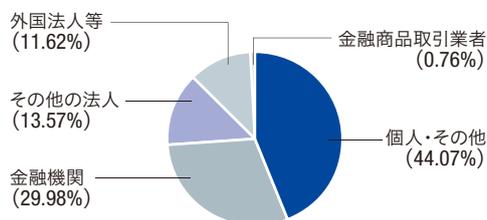
主要大株主

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
和島興産株式会社	4,020	11.66
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,371	6.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,757	5.10
株式会社紀陽銀行	1,472	4.27
島 正博	1,070	3.10
島 三博	1,061	3.08
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.55
合同会社和光	780	2.26
株式会社池田泉州銀行	700	2.03
シマセイキ社員持株会	673	1.95

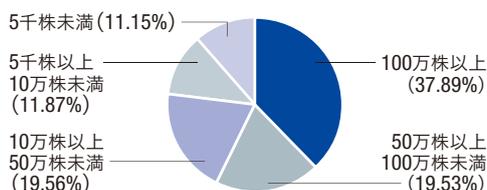
(注)1. 当社は、自己株式2,117千株(5.79%)を保有していますが、上記大株主から除外しています。
 持株比率は、自己株式を控除して計算しています。
 2. 株数は、千株未満を切り捨てて表示しています。

株式分布

所有者別分布



所有数別分布



株価と出来高の推移



IRサイトリニューアルのお知らせ

<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>

この度、株主・投資家の皆様に向けた企業情報を提供するため、IRサイトをリニューアルいたしました。

リニューアルにあたり、ご利用いただく株主・投資家様の視点に立ち、シマセイキの事業戦略や概況、今後の取り組みを分かりやすくお伝えできるよう、コンテンツの拡充とデザインの一新を実施しました。



スマートフォンからも IR情報へアクセス

QRコード(二次元コード)の読み取りに対応したスマートフォンをお持ちの方は、右の画像を読み込むと簡単にアクセスできます。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

Tel: (073) 471-0511(代) Fax: (073) 474-8267

<http://www.shimaseiki.co.jp>

SHIMA SEIKI、シマセイキ、WHOLEGARMENT、ホールガーメント、MACH2、SIR、SSR、SVR、SRV、SDS、SDS-ONE、SDS-ONE APEX、P-CAM、P-LAB、P-SPR、Shima KnitPLM、staf、TOTAL FASHION SYSTEM、トータルファッションシステムは株式会社島精機製作所の日本及びその他の国における登録商標または商標です。

この冊子に記載されている各種名称、会社名、商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Inlaymentは韓国におけるHANBO TEXTILE CO.の登録商標です。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。